

第3回 六甲山再生委員会

日時：平成31年3月27日

開会 午前10時00分

○安岡部長　それでは定刻になりましたので、ただいまから、第3回六甲山再生委員会を開催させていただきます。本日はお忙しい中、御出席をいただきましてありがとうございます。私は、神戸市経済観光局観光MICE部の安岡でございます。どうぞよろしくお願いいたします。以後、着座にて進行させていただきます。

まず、本日の委員会は公開で進めさせていただきたいと思っておりますので、御協力をよろしくお願いいたします。それではお手元の議事次第により進行させていただきたいというふうに考えてございます。

では初めに、開会に当たりまして、本委員会の顧問でございます、神戸市長の久元喜造より御挨拶をさせていただきます。

○久元市長　おはようございます。六甲山再生委員会につきまして、非常に精力的に議論を重ねていただきましてありがとうございます。きょうはこれで締めくくりということになるわけですが、年度末の大変お忙しい中、御出席をいただきましてありがとうございます。この六甲山の再生というのは長年の課題になっておりまして、しかしなかなか十分な成果が上がらなかったということで兵庫県と神戸市で、この再生委員会を立ち上げ議論を進めてきたところです。井戸知事と私が大変懸念をしておりましたのは、この六甲山を乱開発から守るためにさまざまな規制が必要であるわけですが、この規制の内容が不合理なものであって、また全くこの兵庫県、神戸市、環境省が、ばらばらにそれぞれの部局で規制をしている。しかもそれが担当者同士相互に十分理解しないままに、ばらばらに不合理な規制が行われていて、しかもこの民間事業者の皆さんがあちこちの部局にたらい回しをされて、大変な苦痛を被っているのではないかと、こういう懸念であったわけです。そのことが、この再生委員会によりまして完全に解消をされたのかどうか、ぜひ、きょう皆様方の御意見を出して

いただければというふうに思っております。

もう一つは、この六甲山の再生を考える場合のアクセスの問題。これは方向性が一定示されておりますので、これをきちんと、ぜひ関係委員の皆様方と一緒に実施をしていきたいと考えております。

また、これは神戸市の責任が大変大きいわけですがけれども、この山上の歩道、遊歩道またこの登山道、これにつきましてはいろいろと御指摘をいただいておりますし、このランドデザインの中にも方向性が示されておりますので、これは神戸市の責任でしっかりと実施をしていきたいと考えております。

また、この六甲山のこの議論の中で明らかになりましたのは、六甲山上に光ケーブルが来ていないと。インターネットが満足に使えないという驚くべき実態が、これは私も近年まで知らなかったわけですが、全く時代遅れの実態が放置されているということが明らかになりました。このことにつきましては、これは神戸市の責任で、これは絶対に神戸市がやらなければいけないという事務分担ではないかもしれませんが、やはりこれは、六甲山の大部分は神戸市に属しておりますのでこれは神戸市の責任でこの通信環境を改善をしなければいけないということで、平成31年度、32年度にかけて事業を実施し早期にこの通信環境の改善をしていくというふうに考えております。

それを受けまして、これはこれからの議論になりますが、通信環境が大幅に改善されますと六甲山上のこの観光の事業者の皆様方には、また六甲山上でお住まいの皆様方に非常に大きなメリットになるわけですが、同時に今後の六甲山のあり方としては、遊休化している保養所などをベンチャーやITの事業者の皆さんなどに使っていただく。つまりこの六甲山上で今度ビジネスをしていただくというような方向としては、どう考えるのかということが今後の問題として、今後出てくるというふうに思います。いわば、六甲山上スマートシティ構想のようなものがあり得るのかどうか。これはこの通信環境の改善ということを踏まえながら、ぜひ皆様方の御意見をお

聞きをして、今後この構想が適当なのかどうか、実現可能なのかどうかということにつきまして議論を検討を進めていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いを申し上げます。

○安岡部長　　ありがとうございます。なお、井戸知事におかれましては御欠席という御連絡をいただいておりますのでお伝えさせていただきます。

また、本日多数の委員の方に御出席いただいておりますが、お手元の資料1に出席者名簿をお配りしておりますので、それをもちもまして御紹介にかえさせていただきたいと思っております。また私の背後、周りには環境省、兵庫県、神戸市から関係部局の担当者が出席しておりますのでよろしくお願いたします。

それでは、議事に入らせていただきます。議事の進行につきましては、当委員会の委員長であります、長濱委員長にお願いしたいと思っております。どうぞよろしくお願いたします。

○長濱委員長　　ありがとうございます。本日は年度末のお忙しい中、御参集いただきましてありがとうございます。六甲山再生委員会の委員長の長濱伸貴でございます。本日はよろしくお願いたします。

この委員会は、昨年の3月に第1回目を開催しまして、本日は3回目ということになります。それまで、六甲山の活性化に向けてさまざまな議論を重ねていただきました。本日、一番大きな目的、ミッションについては後で御説明ありますけど、この六甲山のランドデザインを皆様と確認して策定していきたいと考えておりますので、よろしくお願いたします。

早速ですけれども、議事に移っていきたく思います。一つ目は、今年度実施しました六甲山でのマーケティング調査がまとまりましたので、一度、第2回の委員会で中間報告させていただいているんですけども、その第2回の以降の調査結果があるということなので、それを報告させていただきたいと思っております。

その次に、六甲山のランドデザインです。先ほど申し上げた本日策定にしたいと

思っているグランドデザインを、皆様に御報告させていただいて、意見をお受けした点、アクションプラン等の確認をさせていただきたいと思います。

その次に、六甲山・摩耶山の規制緩和です。及び本委員会の成果と今後の展開についてというのが、本日の議事の大まかなところになっております。

それでは、まず議事1の六甲山に関するマーケティング調査結果の概要について事務局より御説明をお願いいたします。

○猶原施設調整担当課長　それではお手元の資料3という冊子があると思いますので、そちらのほうをごらんいただけたらと思います。先ほど、ちょっと委員長のほうからも御紹介ありましたけれども、第2回再生委員会以降に実施した調査の報告と、あと7月1日から11月30日に運行をした急行バスの全体としての結果の御報告をさせていただけたらと思います。それではページをめくっていただいて、まず1ページのほうをごらんください。まず、急行バスの運行結果ということで利用者数になってございます。

7月1日から11月30日の5カ月間に合計として2万3,886名の方に御利用をいただきました。下のグラフを見ていただくと運行を開始した7月につきましては、周知不足ということで御参加の方が少なかったんですけれども、8月以降は、メディア等にも露出のほうもふえまして人数がふえてございます。9月は少し台風の影響を受けて人数は減りましたが10月、11月は行楽シーズンということで平日にも、たくさんの方に御利用をいただいております。

また同時期に10月、11月に六甲山上で開催しておりましたアートイベントの六甲ミーツ・アートにつきましても、過去最高の来場者を記録するということが相乗効果があったのではないのかということをお伺いしております。

では、次のページ2ページをごらんいただけたらと思います。利用者の状況ということで8月と11月の2回、バスに乗られた方に対して体験のアンケート調査を行っております。③ということで利用者の居住地ということで調査を行っております。グ

ラフの下から3番目の部分を見ていただけたらと思うんですけども、8月・11月の計ということで、利用者の居住地につきましては、約4割の方が神戸市居住の方、兵庫県居住の方が1割、大阪府居住の方が1割、近畿以外の方が大体4割程度になってございます。近畿以外の4割の方の内訳としましては、約半数の方が関東のほうからの御利用となっております。グラフの一番下がその他の交通機関というグラフがあるんですけども、これにつきましては、急行バスを利用されていない方が六甲ケーブル、まやビューラインのほうに乗られてる方で急行バス以外の方の居住者の分析を行っているんですけども、そこを見ていただくと、近畿以外の方が1割程度ということになってございまして、この結果からちょっと推測できますのが、急行バスにつきましては近畿以外の遠方の方に魅力があったのではないのかなと考えてございます。

では、3ページに移りまして次、利用目的としましては、そのこのグラフのとおりなんですけれども、観光・レジャーの目的で御利用をされた方が最も多くなっております。

次に⑤ということで急行バスがなかった場合の六甲山への来訪の有無についてお伺いしております。次のページのグラフをごらんいただけたらと思います。8月、11月とも急行バスがなかった場合には、16%の方が六甲山のほうには来なかったということで回答をしておられますので、急行バスの一定の需要喚起にもつながったのではないのかなと考えてございます。あわせて対面でいろいろ聞き取りアンケートもとりとるんですけども、その際に伺った評価としては、やはり初めて来た観光客の方にとっては、三宮から乗り継ぎなしで六甲ケーブルのまやビューラインのところまで行けるということで、初めて来た観光客の方にはわかりやすく早く移動できた。あるいは乗り継ぎがないために便利ということで声をいただいております。

そういった結果を踏まえまして、昨年につきましては社会実験として急行バスを実施したことによってございますけれども、ことしにつきましても継続運行をしたいと考えてございます。また、期間につきましても7月からということでしたけれども、期間に

についても拡大してゴールデンウィーク前の4月中から11月までということで運行をしたいと考えてございます。

また、ダイヤにつきましても、ちょっと最初の調整をしてるところなんですけれども、社会実験の結果を踏まえてより利用者の方の利便性が高い、そういったダイヤを組みながら、よりたくさんの方に利用をしていただけるように取り組んでいけたらと思っております。

また、今回は社会実験として三宮からの急行バスだけだったんですけれども、あわせてJR六甲道、阪急六甲から六甲ケーブルへの急行バスについても運行を考えてございます。これにつきましては、あそこの系統が16系統という系統になるんですけれども、沿線住民の方であったり、大学に通われてる方とどうしても混在したバスになってございますので、そこを観光客の方に使っていただく路線と少し分けて運行ができればなと思っております。

次5ページを見ていただけたらと思うんですけれども、これまで行ってこなかった調査として六甲山に来られないという方について、なぜ来ないんですかっていったことを調査を行ってみました。

まずは、日本人対象ですけれども兵庫県民、大阪府民の方にWEB調査を実施しまして、兵庫県民80名、大阪府民220名の計300名の方から御回答をいただいております。①として山のイメージとしては、そこのグラフにありますように景色、夜景がきれいであったり自然に触れられるっていうのが、最も高くなっておりまして、あとは登山であったりドライブを楽しむ場所というような印象を持っておられるんですけれども、一方で一番下ですけれども、特にイメージがわからないという方が3割もいらっしゃるという結果になってございます。

ページをめくっていただいて②が、では六甲山上で知ってる施設はどんなところがありますかということでお伺いをしました。その結果が下のグラフですけれども、六甲山牧場が33%、六甲ケーブルが33%ということで比較的多くの方に知られて

いるんですけれども、知っているものが何もないという方が36%というので、一番高い状況になってございます。

また③として来訪したことがない理由としては、最もそれが高いのが何があるのか、どんなことができるのかわからないっていうのが36%、あるいは行きたいと思う観光施設がないからっていうのが29%ということで、高い状況になってございます。これにつきましては、やはり六甲山のどんなことがあるのか、どんな楽しみがあるのかっていうのが発信が、まだまだできていないのかなということで、非常に反省するところではございますけれども、逆に六甲山上にこんな魅力があるんですよっていうことを知っていただくことができれば、六甲山に来ていただける方につきましては、まだまだふえていく余地があるのかなと考えてございます。

あと、一方で来訪したことがない理由としては、やはり公共交通機関を使ってのアクセスが不便という方が25%いらっしゃいますので、アクセスについては、やはり課題だなということで確認したところでございます。

最後の④ですけれども、どういった条件があれば六甲山に来ますかということで、これもアクセスですね。アクセスの問題が改善されれば、もっと行きたくなるのになということで御意見をお伺いしてございます。

では、次の8ページのほうをごらんください。8ページにつきましては訪日外国人、日本に来られた外国の方、六甲山には来なかったけれども大阪、京都には来ましたよという方について調査のほうを行っております。場所につきましては、関西空港と京都駅のほうで、対象につきましては欧米豪という方の訪日外国人の方に調査を行ってございます。

9ページのほうをごらんいただけたらと思うんですけれども、どういったところで日本の観光地といいますか、回っていくところについて検討をしていますかということで情報源のことを伺っておるんですけれども、約半数の方がインターネットを通じて情報を集めてございます。情報のインターネットの内訳につきましてもG o o g l e

の検索とトリップアドバイザーが飛び抜けて2強ということになってございまして、Google検索でやったりトリップアドバイザーを活用されてるっていう方が、非常に多くなってございます。

また、自国での情報源もインターネットでございましてけれども、日本に来てからの情報収集につきましても4割の方がインターネットということで、やはりインターネットというのが非常に情報源となっているのかなと思います。

10ページ、11ページにつきましては、ちょっと字が細かくなっておりますけれども、実際にガイドブック、どんなものを見ておられますかとか、インターネット、こういったサイトを見ておりますかというのを、ちょっと細かく聞いたものになってございます。また時間があるときに見ていただけたらと思います。

では、13ページのほうをごらんいただけたらと思います。13ページにつきましては、神戸の認知度ということでお伺いしております。回答者の約全体の8割が神戸を知ってるということで回答をされてございまして、神戸の認知度については非常に高いと考えられております。国別に見ると、ちょっとこれは国別の表を出しておらないんですけれども、その中でもイギリスが82%、ドイツが82%ということで神戸の認知度が高かった状況になってございます。

一方で六甲山を知っているかということでお伺いすると、六甲山の認知度につきましては約1割にとどまっている状況にございます。六甲山の認知度につきましては、国別に少し差がございましてドイツが18%、アメリカが15%ということで、そういった国につきましては六甲山の認知度が高いというふうになってございますけれども、全体としてはやはり1割ということで余り知られていないというような状況になってございます。

ただ、10%の知られてる方につきましては、もう少し細かく聞いてみますと、知っていてそのうちの4割の方につきましては今回は六甲山には行かなかったけれども、行こうかどうかは検討をしたということでお伺いしております。やはり六甲山の認知

度がまだまだ海外の方に知られていないという現状がございますので、そういったところに力を入れていく必要があるのかなと考えてございます。

では、ページのほうをめぐっていただいて14ページのほうをごらんいただけたらと思います。来訪意向ということで六甲山のちょっとフリップ、写真と簡単な説明を載せたものを見ていただいて、六甲山上でこういったところに行ってみたいですかということをお伺いすると、やはり摩耶山天上寺が一番大きいということで、寺社仏閣は公の方については強いのかなと考えております。

また、ケーブルとかロープウェーといった乗り物ですね、そういったものにつきましても非常に興味をひかれていました。これちょっと意外だったのは、六甲山の高山植物園がちょっと高い値を、約3割以上の方が選択されておりました、ちょっと写真としては一面花が咲いてるような写真だったんですけども、そういった自然といいですか花といいですか、そういったものについても外国の方に訴求力が高いのかなと思われまます。

また、六甲山にあれば行きたいものということで、15ページですけれどもこれにつきましても、六甲山ならではの食材であったり、夜景を楽しみながら食事ができる場所ということが、圧倒的に数値としては高い状況になってございます。また、地元の方、地域の方と交流するようなイベントがあればぜひ参加したいという声も、比較的高い状況になってございます。

ちょっとはしりながらということで調査のごく一部を紹介させていただいたんですけども、全体の調査については、また非常にボリュームが多い調査を行っておりますけれども、皆様のほうにも御活用いただけるように、ごらんいただけるようにしたいと思っておりますのでぜひ御活用いただけるようよろしくお願いいたします。

以上です。

○長濱委員長 ありがとうございました。一番最後の16、17ページにまとめということで強み・弱みというのを整理していただいているので、このあたりも見ていた

だけたらと思います。基本的には報告事項なのであれですけども、サンプルの取り方とか、クロス集計の分析みたいなところに、まだまだ余地はあるとは思うんですけども、今まで文化的な六甲山に対する本格的なマーケティング調査っていうことをしてこなかったことを思うと、すごく貴重な資料だと思います。ある一定の今の現状のニーズみたいなものを捉えてる資料だと思いますので、今後の六甲山の活性化に向けた施策に生かしていければなと思っています。

では、次に議事（２）の「六甲山ランドデザイン」について移りたいと思います。では、説明を事務局からお願いいたします。

○猶原施設調整担当課長 では、引き続き説明させていただきます。六甲山のランドデザインということで、これまで皆さんに御議論いただいたことにつきまして、冊子の形で確認させていただいております。

それでは1ページ目を見ていただけたらと思います。六甲山の全体の目指すべき方向性としては、前回の再生委員会であったり、それ以降にいただいた御意見を踏まえまして、街とつながり人が集う賑わいの山、都市山・六甲としてございます。都市と自然がここまで近接しているというのが、街の延長線上に山があるというのが六甲山の最大の特徴と魅力であり、それを生かしていこうと都市山・六甲という六甲山特有の魅力を募集していこうということで、全体のみなすべき方向としては都市山・六甲とさせていただきます。

では、ページを開いていただいて3ページ、4ページをごらんいただけたらと思います。次は、各ゾーンごとのビジョンになってございます。六甲山を活性化するために具体的に取組んでいくという上で、その中には規制の見直しということが重要な課題として入ってくるわけですけども、そのためには保護と活用のバランスをいかにとっていくかというのが非常に重要なことでありまして、そのための方向性の整理っていいですか、将来像をこういった形にしていきたいってことを定めてございます。六甲山につきましては、非常に広範囲なエリアになっておりますので、それぞ

れのゾーンに分けて、それぞれのゾーンと特徴であったり強みであったりというのを踏まえながら、いかに保護と活用のバランスを取っていくかというような形で整理したものでございます。

まずは、六甲山ゾーンにつきましては、六甲山を象徴する景観と機能が集まる山上のビレッジという形でさせていただきます。ビレッジにつきましては、自然との調和を保ちながらそこに住んでいる人であったり働く人であったり、訪れる人。そういった多様な方を受け入れていく機能を持っているエリアという意味でビレッジをさせていただきます。六甲山の中心として自然に溶け込む魅力的な山上施設のほか、この間、委員の方の御意見もございましたように、景観を生かしたアート空間であったり、クリエイティブなオフィス空間、働く場ですね。そういった自然と一体になった働く場という新たな価値を六甲山の中で想像していこうということを出していこうというゾーンになってございます。自然との調和を保ちながらこのゾーンにふさわしい施設であったり、環境に配慮した構図のあり方などについても検討をしていきながら、ある意味非日常的な空間を目指していけたらなと思っております。

次に摩耶山ゾーンにつきましては、絶景と美しく静ひつな自然に抱かれた「眺望と文化が彩る山上」としてございます。前回のときには、眺望と祈りの山上としておったんですけれども、やはり祈りがちょっと保全の意味合いが強いかなという御意見がございましたので、人々の営みということで文化という形で「眺望と文化が彩る山上」とさせていただきます。

次に、布引ゾーンにつきましてはまさに市街地の延長線上ということで、近年とにかく海外の方が、非常に来訪が多いゾーンになってございます。ここににつきましてはナショナルパークへのエントランスとさせていただきます。

最後に再度山ゾーンですけれども、前回につきましては癒やしと学びという形でおったんですけれども、癒やしがやはりちょっと表現として弱いかなということもあったので、「学びと発見」ということで未来志向といいますか、将来に向かって再

度山ゾーンの自然と歴史を大事にしていくっていう形で、「自然に浸る学びと発見に満ちた山地」という形にさせていただいております。

ページをめくっていただいて5ページのところが各ゾーンに共通する方策といひましようか、前回の方策の部分なんですけれども、方策1が六甲山の自然を資源を継承するということで保護であったり保全のための方策。方策2が六甲山の魅力の向上を図り情報を発信する。あるいは方策の3が時代にあった規制の見直しを行って、その基準を明確にしていきますよという方策2と3が活用のための方策となっております。

最後の方策の4が、やはり非常に課題の多いアクセスの改善。山上へのアクセスを改善して山上間の改正についても高めていくっていうことを、各ゾーンに共通する大きな4つの方策とさせていただいております。

ページをめくっていただいて、7ページ以降は各ゾーンの目指すべき姿を実現するための方策であったり、具体的な施策をまとめたものになってございます。

ページをめくっていただいて次のページが少しパーツといひますか、絵を書いているんですけれども、ゾーンごとの将来性のビジョンをイメージパーツとして書き起こしたのものになったものになってございます。山上への賑わいという働く場として、また人々が集う場ということをイメージしております。

次に沿道の賑わいということで、13ページ以降も各ゾーンごとの方策と具体的な施策あるいはパーツとなっております。

23ページ、24ページをごらんいただけたらと思います。六甲山上の賑わい創出エリアのイメージ図ということで挙げさせていただいております。ちょっとこの間いろいろと議論させていただいたところなんですけれども、六甲山につきましては、一番外側の青い枠です。水色の枠ですけれども、そこは六甲山の集団施設地区として自然公園法に基づいて国立公園を活用していくためのいろんな施設を集積していく場として、指定させていただいております。ただ、集団施設地区っていうのは、かなり広い

エリアになっておりますので、その中でもこういったエリアに賑わいを創出していくか、あるいは求められているかということで、特に沿道沿いについて賑わいを創出していくエリアっていうことで定めてございます。沿道も賑わいができて、それがまた周囲にも広がっていく。そういった形で賑わいをつくっていただければと考えてございます。

最後に25、26ページをごらんいただけたらと思います。25、26ページが主要アクションプランとして、今後5年間の取り組みですけれども、行政だけではなくて民間事業所の方も加えた全体としての取り組みのロードマップになってございます。ちょっと網羅的につくったので、ちょっと字が小さくなっていますので、また見えるように後で調整したいと思っておりますので済みません。具体的には各ゾーンごと、あるいは全体のゾーンの対象になってくるアクションを網羅的に定めたものになってございます。各ゾーンの共通ということで六甲山のブランディングやプロモーションということで、まず六甲山を知ってもらう。ホームページを作成して六甲山を知ってもらうということであったり、あるいは時代に合った規制の見直しであったり、相談窓口の設置、あるいは、冒頭にもちょっと御指摘があったかと思っておりますけれども、登山道であったり、道路の整備あるいは歩道の整備についてもこのロードマップに従って、できるだけ早期に早い段階で実現していきたいと考えてございます。

また25ページの下オレンジのところを見ていただけたらと思うんですけれども、六甲山ゾーンとして、やはりここにつきましては、民間の力が非常に重要なところと考えてございます。実施したい民間ということ形で載ってございますけれども、既存のコンテンツを充実していったり、あるいは六甲ケーブルの下を改築していったり、新しい機能を導入していくっていうことを民間向きかと思ってるんですけれども、行政も一緒になって取り組んでいきたいなと思ってございます。

また、26ページの六甲山ゾーン、オレンジのところの下ですけれどもインターネットの通信関係につきましても、来年度調査を行って早期実現できるようにスピード

感を持って取り組んでいけたらと思います。このロードマップに基づきまして進捗の管理あるいは現状に合わせ対応していくということをしながらか、六甲山の活性化に向けて、ビジョンの実現に向けて取り組んでまいりたいと考えてございます。

行政だけじゃなくて民間事業の方、あるいは山上の関係者と一緒になって、六甲山の活性化に向けて一体感で取り組んでまいりたいと考えてございますので、何とぞよろしく願いいたします。

以上でございます。

○長濱委員長　ありがとうございます。事務局より説明がありましたけれども、この六甲山再生委員会の一番大きな成果の一つになるかと思ひます。そもそも関係官庁、国、県、市が三つ巴になって調整しないといけないということと、民間事業者さんなり地権者さんなりが多様にいてるってこの状況を考えたときに、今までやや放置されてた。さっき市長からも言われましたけど放置されてたエリアに対して、こういうグランドデザインっていう一定の方向づけです。少しキャッチとかタイトルにいろいろ御意見あるかとは思ひんですけどもスタートアップのグランドデザインをおけたっていうことは、すごく重要なことだと思ひております。今後、早急に、至急にアクションプランを実行されていくと思ひんですけども、これはちょっと個人的意見ですけども、もう一回そのアクション、走りながらもう一回このグランドデザインを見直していけばいいかなと思ひております。そういう意味ではアダプティブ、適応可能なグランドデザインという位置づけかなと思ひております。

少し今後に向けてこのグランドデザインを含めて、今後に向けて、何か皆さん御意見あればお聞かせ願ひたいと思ひますけども、いかがでしょうか。

よろしいですかね。それでは御意見ないようでしたら、これで六甲山グランドデザインの策定とさせていただきますのでよろしく願いいたします。

では、次に議事3のほうに移っていきたくと思ひます。このグランドデザインを実行していくこととすごく大きくかかわるんですけども、六甲山・摩耶山における法規

制と今後の規制緩和の方向性について、これまで御説明いただいた主な法規制、今後の法規制緩和の方向性を含めて、事務局より御説明いただけたらと思います。

○猶原施設調整担当課長　　済みません、ちょっと説明が続いてまして申しわけないですけれども、資料5ということでA3の縦ですか、こういった資料があるかと思うんですけれども、こちらのほうをごらんいただけたらなと思います。資料5のほうは六甲山・摩耶山における主な規制と、先ほどのアクションプランの中にもあるんですけれども、今後の規制緩和の方向性として特出しをしたものになってございます。活用事例別に自然公園法、都市計画法、風致条例と並べておるんですけれども、青字の部分が既に規制緩和を行った。あるいは2019年4月ということでこの4月から緩和を実施するという内容になってございます。

一方で赤色で書いておりますのが、今後の規制緩和の方向性といえますか検討の内容ということになります。各活用事例別というか並べとるんですけれども一番上から2番目のところの自然公園法の見直しとして、自然公園法どんな規制があるかということで並べておるんですけれども、自然公園法のところで青字で書いておりますように、昨年8月に摩耶山を第2種特別地域に緩和していただいております。また、六甲山及び六甲山上の集団施設地区ということで、先ほど少し説明させていただいたんですけれども、摩耶山の集団施設地区ということで指定を行っていただいております。これによりまして、摩耶山上では新たに何かをつくっていくのが、非常に難しかったんですけれども、それができるようになったっていうのと活用事例別で、上のところでキャンプ場であったり飲食店、レストラン、カフェが青字になっておるんですけれども、これをやっていこうという方について手続が簡素化されて、事業が進めやすくなるという形で自然公園法の見直しを行ってございます。

また、都市計画法の見直しとしましては、この再生委員会の中でもいろんな御意見をいただいた中で見直しを实践したものでございますけれども、ちょうど真ん中のところの青字のところになるんですけれども、これまで既存の施設について建てかえは

できるけれども、新築はできなかったということについて30年4月1日から、この4月から新築が可能になるように、あるいは都市計画法の申請前に必要同意という手続が必要だったんですけれども、そういった手続についても簡素化して新たな事業が始めやすいように見直しは行っております。

また、国の見直しにあわせて摩耶山の集団施設地区につきましても新築、建てかえが可能になるような見直しを都市計画法の見直しとして行ってございます。

今度下の段におりまして風致条例に関しましても、これまで高さ制限が10メートルであったものを高さ13メートル以下という形で規制の緩和を行っております。あわせて摩耶山の集団施設の地区につきましてもエリアを拡大してございます。加えて今後の見直しの方向なんですけれども、これまで緑地率は50%以上必要ですよであったり、建築物の地盤の高低差が6メートル以下でないとだめですよってということで、国の自然公園法の基準よりも少しちょっと厳しい規制になっておったんですけれども、これにつきましては基準として問わない形にするように見直しを行いたいと考えてございます。実施につきましては、2019年度中としてございますけれども、早期に実施できるようにしていきたいと考えてございます。

また、一番右側の列になるんですけれども、現在は一番上のところでオフィス、仕事をしていく場につきましては、六甲山上で働く場ということにつきましては、現行の規制上は立地不可ということはできないということになっておるんですけれども、これにつきましては、この前ちょっと御説明させていただいておりますように例えば、IT企業であったりデザインの事務所であったり、そういったクリエイティブな仕事につきましては事務所の立地が可能になるように、見直しのほうを検討を進めてまいりたいと思っております。これによりまして、スマートシティの実現といいますか、そういった形で取り組んでいければと思っております。

具体的には、山上で事務所を立地したいという方につきましては、どのような方がいらっしゃるのかであったり、どのような条件であれば六甲山上にオフィスをつくって

みようかなというふうに思っただけなのかっていうことをヒアリングなり調査を踏まえまして必要な見直し点、規制の緩和のほうを行いたいと考えてございますのでよろしくをお願いします。

今ちょうど賑わい創出事業ということで六甲山に新たなカフェとか、ホテルとかそういうレストランとか、そういったものをされようとする方の県・市があわせて、一緒になって助成制度を行っております、今ちょうどその募集を行っております。やはり規制の見直しが行われてるであったり、六甲山に新たな動きが出ているよっていうのを新聞であったり、テレビであったりメディアのほうに取り上げていただいている影響もあるのか、これまで以上のお問い合わせをいただいております。実際に、規制につきましては、なかなかわかりにくいところがありますので、このシートを活用してこういった、網羅的といいますか、規制にはこういうものがありますよということで説明させていただいております、ちょっとそれやったらわかるわっていうことではいただいておりますけれども、やはり規制というのは、なかなかわかりにくいというのもございますし、それぞれの条件、やりたいことによって掛かってくる規制というのが変わってくるというような状況になってございます。

そこで、ちょっとどうしたら実際に山上の事業をされようとする方に御理解いただけるというか、六甲山で何かやっていこうという気持ちになってもらえるのかなということを、ちょっと市のほうでも考えましてお手元に「六甲山のススメ」ということで冊子のほうを配らさしていただいておりますけれども、そちらのほうをごらんいただけたらと思います。

六甲山の土地利用活用促進ブック「六甲山のススメ」という形で冊子にしておるんですけれども、ページをめくっていただいて1ページを見ていただけたらと思うんですけれども、リードのところから六甲山のこれからを皆さんとつくっていただけるように、六甲山上で事業をする際の法規制をまとめたものですよと。六甲山のこれからを皆とつくっていくためのガイドラインとして作成いたしました。

ページをめくっていただいて、3ページを見ていただけたらと思うんですけども、3ページ以降が事例の紹介ということで実際に事業を六甲山上で始められた方の話として、そのときの御苦勞であったり、六甲山への思いであったり自分たちの後にたくさんの方に続いてほしいといった思いを事例として御紹介させていただいております。

事例1が飲食店の場合ということで、2ページをめくっていただいて5ページが研修施設とカフェの複合施設。ページをめくっていただいて7ページが小売店、8ページが宿泊施設ということで、それぞれのジャンルで委託させていただいて記事形式といえますか御紹介をさせていただいております。

9ページのほうを見ていただくと、それぞれどんなことをしたいですかということで手続にかかっていくフローチャートのほうを紹介させていただいております。ページをめくっていただいて11ページ以降が、それぞれの法律とこういった規制の内容になっておりますけども簡単にまとめたものと、あと問い合わせ窓口としてそれぞれの規制の問い合わせ窓口ということで御紹介させていただいております。

21ページ以降につきましては、よくある質問ということでQ A方式でこういった形で規制になっておりますよということで御紹介をさせていただいております。この「六甲山のススメ」ということで利用活用のガイドブックの活用方法なんですけれども、このときの六甲山再生委員会の皆様の御意見を受けて、やはり窓口がばらばらで相談できるところがなかなかないと、どうしても縦割りになっているというような御意見もございましたので、昨年総合的な窓口として行政の窓口を、私どもの観光企画課のほうに窓口を設置してございます。事業をやろうという方の当初の相談から実際に事業を開始されるまで、一緒になって考えていく。この冊子を使いながら余白がたくさんございますので、そこにいろいろと一緒に書いていったりしながら、その人にカスタマイズしていくような冊子として活用をできたらなと思ってございます。

やはりこれまで規制を担当していく部署が窓口になってございましたので、どうし

でも規制を担当する立場ということでの対応になってきた面がございましたけれども、我々として総合的な相談の窓口として事業をされようとする方に寄り添って、一緒に考えていくというスタンスで取り組んでいけたらなと思っております。実際、規制を担当する部署でないということがありますので、窓口としては大変な面はございますけれども、一人でも多くの方に六甲山で頑張ってみよう、実際にやってみて良かったなというふうにいただけるように取り組んでまいりたいと思いますので、ぜひともよろしく願いできたらと思います。

以上でございます。

○長濱委員長　あとは裏表紙にあれですか、市の支援、助成事業についてが宣伝してあるという、ついているということですよ。ありがとうございます。この「六甲山のススメ」、すごくいいなと思いました。出だしにどういうイメージ、さっきの当然ランドデザインの延長線上の具体例ということになると思うんですけど、六甲山上付近含めて、摩耶山を含めてどういう場所にしていきたいのかっていうような具体的なイメージと、それを実行するときに法規制とか助成のことを含めてどうなってるのかっていうことがまとめられているので、窓口のこともありますけれども、すごくイメージしやすい資料になっているのかなと思っております。

今後、このランドデザインとアクションを進めながらランドデザインも書きかえながら、こういう六甲山のススメのようなものを熱くして行って、ランドとか、そういう再生に向けたものが出ていくときの、これもスタートアップの資料かなと思っております。ありがとうございました。

では、議事（４）です。六甲山再生委員会の成果及び国立公園六甲山魅力向上プロジェクト推進委員会についてということで、資料６に基づいて僕から少し御説明をさせていただきます。

この議事については、この六甲山再生委員会が今後どのように展開していくのかというお話です。資料６、A３の横のやつを少し見ていただきながらお話ししますが、

一つはこの六甲山・摩耶山の魅力ある自然を活用して自然保護のバランスを保ちながら活性化するということが、この委員会の一番大きな目的でしたけれども、かなり短期間です。皆さんの御協力と行政の御尽力によって、ここまでランドデザイン等をまとめるに至ったかと思えます。先ほども申し上げましたけども、このランドデザインで官民一体となって進めていく一つのオリエンテーションが描かれたのかなと思っております。

今後ですけれども、今後に向けて今もですか、六甲山の活性化に向けて、先ほど少し御報告ありました民活の導入のための補助事業です。賑わい創出事業の新築拡大であるとか、新築建てかえの補助額の拡大、景観改善のための解体の補助額拡充をしていくということになっております。こういう動きを見せたところ、事務局からは六甲山に事業参入したいという方の問い合わせが昨今ふえているともお聞きしていますので、現状でもある一定の成果が出ているのかと思えますけど、今後先ほどのランドデザインとか「六甲山のススメ」みたいなものの告知で、より拡大していけたらなと思っております。

もう一つは、民間事業者のほうで後で御報告あるんですかね、あのパンフレットが配付されていましたが、フォレストアドベンチャー・神戸六甲山が近々オープンされるということで、こういう外国人等に向けた会議の合間に自然の中でリフレッシュするアクティビティとしてフィールドアスレチックは当然、今、既存でも人気がありますけどもさらにそれを強化されていくという動きも民間事業者の中からも出ているということです。

これからの先の事業参入者に向けた活用事例のパンフレットを神戸市から配付しているところですけども、先ほど事務局から説明がありました乱開発につながらないように、自然保護と活用のバランスを保ちながらビジョンを実現していくための見直しについて、前向きに検討をしていただけるという成果があったことは、この委員会の大きな成果の一つでもあるかなと考えております。

また、これもまた御説明ありましたけども、継続して急行バスが運行されることになっておりますので観光客の誘致ですね。体験型コンテンツの造成とか販売が可能になるってということにもつながっていることも、一つの大きな成果になってるかなと思っております。

この委員会、六甲山再生委員会は本日でランドデザインを策定できたということので一旦、発展的に解消をします。これ以降は平成29年度から立ち上がっている国立公園六甲山魅力向上プロジェクト推進委員会、ちょっと長いタイトルなんですけども、国と県と市で運営されているこの委員会に引き継がれて実際のアクションですか。六甲・摩耶地区の実用に即した管理運営計画を策定して進化し続けると都市山を目指していくということに展開していくことになります。

この動きに関してもひとえに、本日のこの委員会にお集まりいただいている皆さんと活発な議論を交わした中で、そういう発展的解消をした上で、次の推進委員会に引き継いでいくということにおいて、大変感謝をしておりますということです。

事務局のカンペは以上なんですけども、個人的に六甲山再生委員会の委員長を拝命してやっているんですけども、これ文化的景観の話だと思います。世界遺産でも十数年前から暮らしと自然環境の向き合い方みたいなものも大事だよねという建物とか自然だけではなくて、瀬戸内海が一番最も色が濃いんですけども、そのうちの一つのこの六甲山っていうのは、歴史的に見ても暮らしのあった山だということだと思います。明治以降ゴルフとかスポーツ、ハイキングとかでアクティブなレジャー系で、そういう文化的景観ですごく愛されてた山ですけれども、そのコンテンツがなかなか落ちてきたりとかアクセスの問題とかがあって、もう一回それを再生さそうというのが、この委員会の一番大きなミッション、方向づけだと思います。冒頭、市長からもありましたけども、インフラ整備であったりとか、オフィスのようなものです。やや大きな意味でのリゾートレクリエーションみたいなコンテンツの見直しと、それをバックアップするインフラであったりとか法規制みたいなものを描いていって、新しい多分六甲山っ

という文化的景観を生むってということが一番、多分重要でその景観を見に来る。観光というのが当然ビジネス的には観光ってというのが必要になると思うんですけども、まずはやっぱり県民、市民の文化的景観を生んでそれを観光しに行くってということが求められてるとというのが、この都市山って言い方の一番本質かなと思いますので、まずはやっぱり県民、市民が楽しめる山上であるってということが近畿圏なり国内、海外の方の魅力、もしくはリピートするってということが、そこに一番あるのかなと個人的には思っております。

引き続き積極的に推進委員会のほうでアクションを起こされるようですので、そのあたりに期待して、この再生委員会の委員長としてのコメントとしたいと思います。

それでは事務局にお返ししたいと思いますのでよろしく申し上げます。

○安岡部長　ありがとうございます。委員長、せっかくですから何か御意見があったらいま一度聞いていただいてもいいですか、済みません。

○長濱委員長　そうですね、さっきガイドラインの件もありましたし、今後の思いについて御意見等々をお聞かせ願えたらと思います。特にあれですか、民間の事業者の方、地権者の方の御意見をお聞かせ願えたらと思いますけど、何かありますか。

宮西さん、お願いします。

○宮西委員　六甲山観光の宮西です。1年間やってきたわけですけど、もともとこの六甲山再生委員会に臨むスタンスとしては、六甲山事業を営む中で、一つはいろいろやってきたけど結局知られてないよねってところですね。だから、その知られていないってことをどうやって知っていただくかと。来てさえいただければ魅力のあるところだなとわかっていただけるのではないかなというのはいつありました。

もう一つ、二つ目が魅力の掘り起こしということで、やはり、じゃあ来ていただくためにどんな形で魅力をPRするかっていうことなんですけど、やっぱりあれやってみたいとか、あれ見てみたいとか、そういったことをしっかり伝えて、そういったコンテンツがやっぱり必要かなということで考えてきました。その一つが今回フォレ

ストアドベンチャーになるわけですが、そういったことを考えていました。

それからもう一つは、市長からもお話いただきましたけど、山上の整備であるとかアクセスの問題であるとか、そういった通信環境とか、歩道といったインフラ整備そういったところが非常に大きな課題で、これは民間としてもいかんともしがたいっていうところがありまして、この全体としては今回の再生委員会で一番よかったと思うのは、課題が共有できたというところが一つ大きいのかなと思っています。あとは、我々が考えてるスピード感と、そのいわゆる行政の方々が考えておられるスピード感に、やはり若干のずれがあるのでここをどういうふうにやっていくか。

ただ、急げばいいっていうものではなくて未来につながるような形で、やっぱり六甲山、あのときに動きだしてよかったよねと20年後も30年後も思っていただけのような形にするためには、乱開発なんてもちろんだめですし、やっぱり今、委員長が言われましたように市民、県民あるいは関西の人にとってもいい、海外の人もそうなんですけど、やっぱり足元の人たちに喜んでいただけるような六甲山をつくっていかないと、やっぱりだめなのかなと。これは慈さんがいつも愛される山にしたいっていうことを、かなり言われてますけど、そういったことをちょっと思っていました。

あとランドデザインとかスケジュールのほうは、今申し上げたように少し、やっぱりもう少しスピードアップしていかないとだめかなとは思いますが、こちらとしてはできることは、もうどんどんやっていきながらもっと新しい魅力向上プロジェクト推進委員会のほうで、もう少し具体策をしっかりと立てながらやっていきたいなと思います。

○長濱委員長　ありがとうございます。この委員会をやって民間事業者の委員の方がすごく積極的だなんていうのが印象的です。逆に行政のほうで、それに追いつけるのかなと思って、今のスピード感の話かなと思います。

とはいえ、やっぱり行政目線の先ほど宮西委員からもありましたけど、長期的な魅力につながるっていうのは、どっかやっぱり行政が担保しておかないといけないって

いうところもあるので、そこのバランスという意味では、すごく委員の構成だったかなと思っています。

竹田委員。

○竹田委員 住吉学園の竹田でございます。先ほどは宮西社長もおっしゃったように、六甲山はこれからますますやっていかないかんと思うんですが、今までランドデザインとか、そういう再生委員会については一応の成果を上げられたと思います。御苦労さまでございました。

ただ、今ちょっと私どもの土地のほうでもホテルとか建てさせてくれとかいう話があるんですが、まだ個々にホテルを建てたり、こう開発していくんじゃなくて全体としてどうするんやというのをはっきり決めてから、そっちのほうへ行かないと、また前と同じような、保養所ばかり建ってしまって何をするの、ということがないじゃないですか。今ホテル建ててるんは東京オリンピック、インバウンドに向けて大阪、京都、奈良、あっちのほうでは、東京では取れないから、とりあえず六甲山で絶対来るだろうなど、宿泊者が。ただ、六甲山を目的に来るんじゃなくて京都、奈良ほかのところが目的で、例えばオリンピックとか、そういうのが目的で来られるんであって、本当に六甲山を目的に来られるような山にこれからしていくためには、まだこの議論もっともっと詰めたところをいかないとだめなんかなと思っています。だから、もう少し専門家、先生は専門家でございますが、もっともっとプロデュースする。コンサルとかの意見を聞きながら本当に日本にない山。世界にない山、六甲山という特徴をもっとつくって行ってほしいなと思っています。

○長濱委員長 ありがとうございます。全国の国立公園を見ても六甲山エリアというのは、非常に特殊というかこだけ都市部に近接していつも言いますが、裏山のような都市山って呼ばれてますが、その場所の魅力ですよね。そこを今、竹田委員が言われたように、どういう空間とかニュアンスの場所にしていくかっていうのは、まだまだやっぱり個々の思いはあるんでしょうけども、大きな流れにはなっ

てないと思います。

どっかで鶏の卵だと思うんですけど、少しやっぱりやり始めながらやっていかないと、なかなかやっぱりやる前にじゃあこうしましょってというのは、なかなかやっぱり決まらない側面もあるので、少しやっぱりやり始めながらみんなで、もう一回考えていってどういうやっぱり場所であったりとか、どういう景観みたいなものの場所なのかっていうこともあわせてやっぱり今後やっていく必要があるのかなと思っております。

ほかに御意見ありますか。あと少しこれ紹介して、先ほど宮西委員から少し御紹介ありましたフォレストアドベンチャー・神戸六甲山ですね。4月13日にオープンですか。これのパンフレットをお配りしております。あとこれも、もういいのかね。これまだ少しマヤ暦（れき）ですか。摩耶山再生の会ということで少し御説明をお願いします。あと感想も何かあれば。

○慈委員　　摩耶山再生の会の慈です。今、マヤこれは「ごよみ」と読むんです。マヤ暦（れき）って読むと、また向こうのアメリカのほうに怒られちゃうんで、マヤ暦（れき）。

今六甲山ランドデザインっていうことで、一つ僕よかったかなと思うのは、六甲山ってひとくくりにせずに、各エリア東西にすごい長い山ですので、それぞれの特徴を出して色使いができたってというのは、一つよかったかなと思います。ひとくくりにするんじゃなくて、やっぱりそれぞれの山にそれぞれの歴史がありますので、その辺が明確になったところがよかったかなと思います。

それとあと竹田さんが今言われましたがホテル、今最近新聞とか摩耶山のほうも何やホテル建つんかとかというて、結構僕ら街で言われたりするんですけど、やっぱ箱物といいますか、箱が先行でいっちゃうとどうしても、もう僕ら今マヤ遺跡ガイドウォークってやっていますけど、もうまた摩耶館つくるんかっていう話になっちゃいますので、もうこれ以上廃虚は要りません。摩耶山もそうなんですけど、僕はこのマヤ

暦もちょっと見ていただくと、これ全部後ろこれ市民活動なんです。全部市民の方が山上でやられてる活動ですけども、僕らは摩耶山再生っていうのは別に木を植えたりする再生じゃなくて、人と山との関係を再生しようということで山の文化です。その山に残ってたっていう文化を復活さそうということで今このマヤカツっていうのをやっています。この観光っていうことになる。基本的には市民向けの講座。市民向けっていうか市民が楽しんでいただけるようなプロデュースみたいな、ディレクションみたいなのをしているんですけども、これが多分観光につながっていくと僕は思っています。

というのが、先ほどのアンケートにもありましたけど、結構体験をしたいことをしたいっていうところでありました。じゃあ摩耶山で何が体験できるのって言って夜景見たら夜景なんか一瞬で終わりです。5分で終わっちゃいます。そうじゃなくて夜景見ながら、例えばヨガができるじゃないですけども、そういうやっぱり市民、地元の人たちと海外の方が交流できるようになっていう、そういうソフトもどんどん充実させていかないと、いきなりホテルや何か施設やカフェやいうても、なかなかちょっとそれだけだとまたブームが過ぎちゃうと、また、こないなります。やっぱりそういう僕らはちょっとドキドキして、いろんな意味でドキドキしてるんですけど、摩耶山とか六甲山がどうなるかって言ったときに、やっぱり市民の山いうところをベースにして、それでインバウンドといいますか、その観光をどうつなげていくかって、その両輪の感じをどうやっていくかっていうのは、今後の課題かなというふうには思っています。

○長濱委員長　ありがとうございます。六甲山・摩耶山の自然エリアですけども、実は街中、都市山って呼ばれるゆえんがそこにあるんです。街中とよく似ていて塩屋であったりとか、摩耶山でやられる活動ですね。市民サイドからのまちづくりというか、ソフトみたいなプログラムとやっぱりセットになっていく必要があるということかなと思っています。

箱とか場所をつくってそこの使い方ですよ。昨今、公園でも何をつくるかよりも、

どう使うのかみたいなことがテーマになっていて、そう使うからこういうものをつくろうとか、六甲山においてもそこは両輪になってないと続かないとカリピーターが来ないってことかなと思っていますので、ぜひまた継続して頑張ってくださいと思います。

あともう一つが六甲山のスイスフェアですかね。

○宮西委員　スイスフェアの中に実は春山遊びっていう六甲山牧場のやぎがトップに出てるやつがあるんですけど、こちらがいわゆる六甲・摩耶観光推進協議会と行政さんで新たに別につくった六甲山ウィンター・フェスティバス実行委員会。ウィンターなんですけど冬にやるよりも、ちょっと春に向けて冬から春に切りかえていろんなことをやっていこうということで、先ほどの慈さんとは逆に、山上事業者と行政の皆さんと協力して、いろんなイベントを裏に立ち上げていますので、こういった形での案内も行ってます。結構人気なのが、ジャズライブとか人数は少ないんですけど、来てみて本当にいいところですねっていうような御意見もいただきますし、そういった形での地道なPR。

それから一番右端の下から2番目の摩耶詣祭です。これ天上寺さんと六甲山牧場さんの協力で、いわゆるやるんですけど、護摩行みたいな形で副貫主がやられたりとか、なかなかかなりいわゆる祭事、神事としてもなかなかすばらしいですけど、集まってるかたがハイキングで結構集めてる割には200人とか、300人とかぐらいしか見ていただいてなくて、もっと知られざる魅力があるなということで、こういったこともどんどんPRしていく必要があるかなと思っています。

それからこのスイスフェアのほうは、皆さんちょうど年代的にテレビで見ておられたと思う「アルプスの少女のハイジ」、これ六甲ガーデンテラスという眺望ナンバーワンの場所でやってる。去年からやりだした祭事なんですけど、こういった古いんですけど、少し人気のあるコンテンツを使って興味のある方に上がってきていただくと。特にハイジはスイスなので、スイスにちなんだ飲食であるとか、あるいはグッズであ

るとか、そういったものを展開しながら春。春もちょっと六甲山は実は寒くて、まだ弱い季節なのでこういった形で盛り上げていくってようなことをしております。

それから最後に、先ほどのフォレストアドベンチャーなんですけど、これは裏面がフィールドアスレチックで、この裏面のフィールドアスレチックが実はかなり人気施設でして、年間で約10万人弱ぐらい来られるんですけど、春休みとか夏休みの朝に六甲ケーブル山上駅にいますと、まずイの一番に聞かれるのがフィールドアスレチックどこに、どうやっていったらいいですかなんです。六甲山牧場と並んで目的施設なんですけど、やっぱりアクティブに子供たちが遊ぶっていうのは非常に人気のコンテンツになってまして、このフォレストアドベンチャーは子供さんだけではなくて、大人向けでもかなり楽しい。どういった特徴があるかというところ、かなり高いところ8メートルとか10メートルぐらいのところ、ハーネスっていう安全具を着けて、こういうアスレチックをやっていくと。圧巻のジップスライドの全長220メートルという、びゅーっと滑っていくんですけど、こういったスリルも体験できて2時間で3,700円が高いのか安いのかということなんですけど、カントリーハウスでその後も遊べますので、かなりお得なコンテンツかなと思います。

ただ、これも知られないとどうしようもないのでPRをどうしていくかっていうことでやってるんですけど、フォレストアドベンチャーっていうのは、実は全国に22カ所現在ありまして、フォレストアドベンチャーというコンテンツ自体が知ってるかたにとっては非常に魅力的なコンテンツで、今まで都会では特に関西は篠山とかしかなかったんで、かなり便利なおところにできたということで人気を集めると思います。

関東は箱根とか結構あるんですけど、それでも都会に近いところにはないっていうことで、これは神戸であるっていうことが非常に大きいので、タイトルもフォレストアドベンチャー・神戸六甲山と「神戸」をつけて、そういう形で認知を高めるという形に今回は工夫をしています。現在のところゴールデンウィークの予約率は大体20%ぐらいなので、ちょっとまだ弱いかなと思うんですけど、これ間際になるとかなり天候

の状況なんかを見ながら予約されるっていうことなので、かなり期待ができるかなというふうに思っております。

私からは以上です。

○長濱委員長 御案内、ありがとうございます。私からフォレストアドベンチャーのお話を聞いてると、こういうダイナミックの展開をするときに都心から近いっていうのが、かなりやっぱりできるんだけど今現状は近くて遠いということなんですかね。アクセスであったりとか、インフォメーションがやっぱり弱いということで、その辺を強化したらやっぱりより直結するということかなと思います。

お話聞いてて既存のコンテンツですね。プログラムをもう一回フォーカスしたりとか新しいコンテンツっていうのを、かなり展開して、先ほどの話でいうと体験をふやしていくっていうことを、かなりやっぱり民間の利用者さんのほうっていうのはあの手この手でやられていってるんだなと思いました。

じゃあ、水埜副委員長、お願いしていいですか。

○水埜副委員長 私ですか。

○長濱委員長 はい。あと榎本さんも。

○水埜副委員長 半ばちょっと事務局のような立場なんですけれども、1年間いろんな議論を重ねてワーキングも含めていろんな意見を出していただきながら、このランドデザインをまとめてくることができました。本当にこれ先ほどから話出てますが、やるべきことは大体ラインナップできたかと思います。あとは宮西さんがおっしゃったように、あと我々のスピード感と、あと実行力といいますか規制緩和もまだまだやるべきことがあろうかと思っています。実際に進めていく力に掛かってくるかなと思っております。

もともとこの山に着目されたのは、イギリスの方々グループさんとかシムさんとかが避暑地として、まず注目されてレクリエーションの場として開発が進んできました。そういう意味からすると、ことしの秋ラグビーの世界カップで多分、きのうの市

長の講演でもおっしゃってたんですけども2万人とも、4万人ともいらし得る方々がイギリスからみえられるようでございます。こういった機会を生かしてどんどん情報発信をするというのが、まず第一に重要なことだと思っております。国内も都市山も住民の方もそうなんですけれども、まずこれ西洋人が着目して開発を始めた山ですので原点に戻っていろんなPR発信方法も、私ども行政も含めて繰り広げていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。ちょっと何か感想のような形になってしまいました。

○長濱委員長　ありがとうございます。西洋人の開発っていうのもありますけど、結局は居留地、雑居地です。街部との関係が大きい山だったということです、歴史的に見ても。これは今も立地は変わっていないので、恐らく市街地のまちづくりと1セットでやっぱりアクセス含めて、考えていく必要がある立地だということかなと思います。

あと、最後に環境省の榎本委員、よろしくお願いいたします。

○榎本委員　環境省の榎本です。いつもお世話になっております。今回グランドデザインができて、街とつながり人が集う賑わいの山「都市山・六甲」ということで、これは国立公園の六甲山のビジョンと同じものになっています。今後は今回その再生委員会のほうは発展的に解消をされて、今後は国立公園、六甲山の魅力をプロジェクト推進委員会というところで、19年度は主に管理運営計画をつくっていかうというのがメインの取り組みになるかと思えます。最初にもお話したかもしれませんが、国立公園という規制というイメージが皆さん強くて、私どもも従来その国立公園の紹介をするときによく天秤の絵を使って、保護と利用のバランスを取っていく制度ですというような説明をしておりましたけども、今回一連の取り組みであるとか、国立公園全体の取り組みを見ておりましたが、保護と利用はバランスを取るというよりも、もう一体として利用するために保護があるし、保護するところから利用も出てくるといふことで、そういったその管理運営を、これ環境省だけではできませんので地域の

皆様こういった場、あるいは今後のそのプロジェクト推進委員会の場を通じていろいろ地元の方、地域の事業所の方とコミュニケーションを取りながら今後の国立公園の管理運営というものを考えていきつつ、これまでとはちょっと違った管理運営計画をつくっていただければいいなというふうに思っておりますので、引き続き御協力をお願いしたいと思います。

○長濱委員長　ありがとうございます。そうですね、保護と活用っていうのが一体化っていうのがランニングコストを含めて、そこで活用をしながらそのお金を今度保護に回して行って、活用が盛んになればなるほど今度また保護が充実できるみたいなことの、少しエリアマネジメント的な視点っていうのは、特に六甲山っていうのは、先ほど活用していこうという展開モデルでしょうから、そのあたりをもう少しマネジメントみたいな側面からも、管理運営計画の中で充実していただければなと考えております。

ほかに、そろそろお時間で。中林委員、お願いします。

○中林委員　1年間でやっぱり、市長が冒頭でおっしゃったように、やっぱり国、県、市それから民間のこういうのが集まって1年間こう、できたというのは非常によかったなと。そういう意味では神戸市の関係の皆さんの努力でこんだけばっと進んだなというふうには思っております。私どもは、去年神戸経済ビジョンをつくったときに、六甲山というのは都市型リゾートであり、公益観光の一つの目玉にしようというふうにうたっておりますので、そういう意味ではこの調査にもありましたように、もっとプロモーションのやり方というのは、どんどん変えていってもいいんじゃないかなと思うんですね。今スマホで見ながらそこを見れば、それと同じものがバーチャルが別に出てくるようなこともどんどん可能なので、ちょっと最新のそういうものを使いながらやっていただければいいかなと。特に最近聞いたんですけど、やっぱり二条城も英語とか、いろんな語学で説明をするようになって非常に、やっぱりヨーロッパの人なんか来るといったことなので、ぜひその辺のそのインバウンド向けのと

ころをお願いしたいということ。

それから私は、その南北アクセスという改善では急行バスが非常に5月から11月までされるということで、それは非常にいいということだと思うんですけども、三宮から新神戸へ上がってそれから六甲山に抜けるっていうんですか。その助長的なところももっと活性化できるのではないかと。例えば香港島なんか世界一長いエスカレーターでもって、ずっとこう上げていくような、それで住民もインバウンドをうまくつながってるんで山頂だけじゃなく、下から上がっていくそのところの取り組みもぜひお願いしたいなと思います。

市長がおっしゃっていましたがスマートシティっていうのを、私、最近終わったんですけど最近スーパーシティ構想っていうのがありますけど、ここでいうたらスーパービレッジ構想みたいな形でSDGsのいろんなことを考えながら、新しいものをつつエネルギーなんかもうまく取り込んでいける一つのモデルとして考えていけるんじゃないかなという気がしますので、竹田理事長の山頂電気自動車でもいいんじゃないかということであれば、例えばバスだって水素バスであれば全然問題ないですし、そういうふうな観点で一つ考えていくのもおもしろいんじゃないかと思います。

○長濱委員長　ありがとうございます。お聞きしてもやっぱり街の一部、街の延長線上でのという当然立地環境が違うわけで、同じスマートシティ、街中でやる場合と六甲山でやる場合っていうのはモデルが違うんですけど、一連のやっぱりトータルに考えていくということかなと思いました。

ほかに。寺本委員。

○寺本委員　大変お疲れさまでございました。1年間本当に立派な議論ができたというふうに思っております。フェイスブックなんかでこういう再生委員会があるんだよというようなことを挙げておりましたら、非常に多くの方から問い合わせというか反応がありました。非常にいろんな方が六甲山のことに興味を持っているんだなというふうに思いました。

ただ、私に聞かれても全然、非常によくわからないのでどこへ聞いたらいいなだろうというような話もありましたので、この問い合わせの窓口をつくっていただくってことは非常に有益なことだと思いますし、この「六甲山のススメ」という本も作っていただきまして、そういった意味ではいいことだと思いますが、これをずっと拝見しておりますと、私としては何かこんなにレクリエーションがあるのかと思って、もうやる気を失ってしまうような優等生的な書き方で、余りこんな細かいことは建築をするときに必要なことだと思うので、そういったことを書くのではなくてこんなこともできますよ。あんなこともできますよというような前向きに書いていただければいいと思いますし、後ろの問い合わせの窓口というのも何か20ぐらい書いてありまして、これもまた逆効果ではないかと。もう県、市を一つにしてここへ聞いてもらえば何でもわかるよという形にしてもらわないと、ちょっとこの前半のほうの楽しい立派なものができるよというところと、後ろのほうとはちょっと整合性に欠けるかなというふうに思いました。

やはり問い合わせの中でも、どんなものができるんだっていう、可能なんだという意味と、それからどういうものができるんだろうかというような問い合わせなんかもありましたので、やはり神戸市さんが何か大きな投資をされてリーディングをしていただくことが重要やないかというふうに思います。ワイン城とかフルーツフラワーパークとか、あんなところにあんなすごい投資をされる神戸市さんなんですから、この一番立派な六甲山にはそれなりの投資をしていただいて、皆さんが楽しんでいただくような場所をつくっていただくことをお願いして意見とさせていただきます。

○長濱委員長 貴重な御意見、ありがとうございます。投資については市だけではなくて国、県、市やっぱり一体となるし、当然民間の一体性で投資していったほうがいいかなと思います。

まだまだ市長も冒頭言ってましたけど、一元化を狙ったんですけど、まだまだ一元化できない。でも、このパンフレットに全員が並べて書くっていうことが、少し進め

てるところだと思しますので、さらなる一元化を今後期待したいとは思っています。

最後、少し市長のほうから冒頭コメントをいただきましたけども、今後に向けての感想とか御意見いただけたらと思しますのでよろしくをお願いします。

○久元市長　大変ありがとうございました。宮西社長からこのフォレストアドベンチャー、これ大変すばらしい施設です。今の子供はスマホをずっといじってるというような傾向があるので、とにかく野外で体を動かしてもらってということを、たくさんの人に訪れていただきたいというふうに思います。

慈さんからこの非常に多彩な活動を紹介していただきまして、これは本当に感謝を申し上げたいと思えます。問題は、やはり水塾副委員長がおっしゃったこと、非常に大事なんですけども情報発信なんですよね。これ中林さんもおっしゃっていましたがプロモーションなんですよね。これが、やっぱりまだまだ特に海外への発信も含めて十分ではないので、これは神戸市観光局、それから行政または皆さんからも、いろいろと知恵を出していただいて強力な情報発信を、二条城の例もありましたけど多言語で六甲山の、これぜひ発信をします。特に欧米の皆さんは、この日本文化にも関心があるので天上寺にも、もっともっと関心が向けられるんじゃないかなというふうに思います。

それから榎本課長にお礼を申し上げないといけないんですけど、環境省さんのこの規制のあり方、相当大きく考え方を前向きにさせていただいておりまして、ぜひ来年度も有意義な計画をつくっていただけたらと思えます。どうぞよろしくお願いいたします。

最後に、この規制の関係なんですけれども、私の気持ちとしては寺本社長がおっしゃってること、全く同感なんですけど、これは役所としてはこれは大変な進歩なんですよ。一覧性のある形でこういうものができたということは、これは今まではこれ一つ一つ問い合わせんとあかんかったのが、これができたのは非常に進歩なんですけど、しかし求められる方向はすぐには無理かもしれないんですけど、やっぱりこの経済観

光局に電話したら取り次ぐだけでは各課に。これでは、やっぱりちょっと恥ずかしいので、やっぱり照会があって基礎的な部分は窓口で答えていただくと。最後は、それぞれに問い合わせただけかといけなけれども、大抵のことは、そこで答えられるようにしていただきたいなど。それがやっぱりこの一元化の意味ですので、なかなかそこ大変かと思えますけれども、ぜひそこをよく庁内で調整をして、あっち行ったりこっち行ったりすることがないようにぜひやって、これは私の責任ですけれども、そういうこともしっかりやっていただけたらというふうに思います。

いずれにいたしましても、本当にありがとうございました。

○長濱委員長　ありがとうございました。情報発信っていうのは、ある種すぐできることだと思いますので、精力的にやっていただけたらと思います。あわせてやっぱりある程度、情報発信して、来ていただいたときに外々どうしてあげるかとか、その居心地の良さであったりとかみたいなことがセットで、それがまたインスタとか含めて情報発信に載っていくっていう、多相性に最近情報発信っていうのはなっているんで、あわせてやっぱりある一定のイベントなり空間整備みたいなことも、やっぱりあわせてしていかないと次にリピーターを呼ぶっていうのが一番大きいでしょうから、そこも情報発信とともにやっていく必要があるかなと少し思いました。

じゃあ、以上です。

○宮西委員　1つだけ済みません、今の情報発信でいうと今回またやっていただく六甲までの急行バス、これ前回後ろにいけばいくほどよくなってた一つの理由は、告知力が上がったからなんですね。今回やるんですけど、前回のようなバス停の表示とか、あるいは駅からのアクセスがわからないっていうようなことをやると、せっかく走らしてたのがもったいないので、どうやってそのバス停にたどり着かせるか。せっかく毎日6便、6往復走らせていただくのでそれを来た人が、三宮に降りた人がどこに行けばいいのか、もう、すぐわかるような形の案内がやっぱり必要だと思います。

それをやった上で利用度がどうなのか。要は知らなかったら利用できないので、そ

ういったことを徹底的に今回やって知らせていくっていうのは、どういうことなのかっていう一つのモデルケースにさせていただきたいなと思います。

○長濱委員長　　やや社会実験的にスタートした側面もあって、公共交通というところまでしゃべっていると、やっぱりどっかで多分言われているので、切り取りですね。切り取ったりとかスマホのルートマップにどこまで載るかっていうのが、恐らく利用率の勝負ですので継続されるということで、そのあたりも引き続き御検討をいただけたらと思います。

じゃあ、よろしいですかね。以上ですので、事務局にお返ししたいと思います。

○安岡部長　　委員長、どうもありがとうございました。いろいろ御意見いただきます来年度のサインとかホームページそれ等々につきましては、31年度予算がついてございますので、スピード感を持ってやっていきたいというふうに考えてございます。

また、窓口のほうも今現在たらい回しにならないように、まず総合窓口というような形でしっかりと兵庫県さんと神戸市であれば、我々観光企画課のほうで全てお聞きしてやってございますので、このあたりの総合窓口もどんどんと発信をしてまいりまして頑張っていきたいというふうに考えてございます。きょうで再生委員会は終わりますが、もうすぐに我々、私だけじゃなくて私の背後にたくさんの職員がいていただいておりますので、みんなで一丸となってやはり都市山・六甲がいつまでも進化し続けるものであるというような形のことで、しっかりと頑張っていきたいと思っておりますので、また引き続き見守っていただきたいとともに、また御意見を頂戴したいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、以上をもちまして六甲山再生委員会を終了したいと思います。

本日はどうもありがとうございました。

閉会　午前11時29分